



70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番号 ばんごう	上の句 かみく	下の句 しもく	作者 さくしや
<p>さびしきにやどをたちいでてながむれば さびしきにやどをたちいでてながむれば さびしきにやどをたちいでてながむれば</p>	<p>あらし吹く三室の山のもみぢ葉は あらしふくみむろのやまのもみぢばは あらしふくみむろのやまのもみぢばは</p>	<p>心にもあらでうき世にながらへば こころにもあらでうきよにながらえは こころにもあらでうきよにながらえは</p>	<p>春の夜の夢ばかりなる手枕に はるのよのゆめばかりなるたまくらに はるのよのゆめばかりなるたまくらに</p>	<p>もろともにあわれとおもえやまぎくら もろともにあわれとおもえやまぎくら もろともにあわれとおもえやまぎくら</p>	<p>恨みわび乾さぬ袖だにあるものを うらみわびほさぬそでだにあるものを うらみわびほさぬそでだにあるものを</p>	<p>朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あさぼらけうじのかわぎりたえだえに あさぼらけうじのかわぎりたえだえに</p>	<p>今はただ思ひ絶えなむとばかりを いまはただおもいたえなるとばかりを いまはただおもいたえなるとばかりを</p>	<p>夜をこめて鶏の空音ははかるとも よをこめてとりのそらねははかるとも よをこめてとりのそらねははかるとも</p>	<p>いにしへの奈良の都の八重桜 いにしへのならのみやこのやえぎくら いにしへの奈良の都の八重桜</p>	番号	上の句	<p>きようこのえににおいぬるかな けふ九重にほひぬるかな よにおうさかのせきはゆるさじ よにあふ坂の関はゆるさじ ひとづてならでいうよしもがな 人づてならでいふよしもがな あらわれわたるせぜのあじろぎ あらはれわたる瀬々の網代木 こいにくちなんなこそおしけれ 恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ はなよりほかにしるひともなし 花よりほかに知る人もなし かひなく立たむ名こそ惜しけれ かひなくたたんなこそおしけれ こいしかるべきよわのつきかな 恋しかるべき夜半の月かな たつたのかわのにしきなりけり 竜田の川の錦なりけり いづこもおなじあきのゆうぐれ いづこも同じ秋の夕暮</p>	<p>いせのたいふ 伊勢大輔 せいしようなごん 清少納言 さきようのだいぶみちまさ 左京大夫道雅 ちゅうなごんさだより 中納言定頼 さがみ 相模 さきのだいそうじようぎようそん 前大僧正行尊 すおうのなしい 周防内侍 さんじよういん 三条院 のういんほうし 能因法師 りようぜんほうし 良暹法師</p>